

種子島沖より採集された日本初記録の貝類

倉持敦子¹⁾・倉持卓司²⁾・厚井晶子³⁾・長沼 毅^{3)*}

¹⁾ 神奈川県横須賀市芦名2-6-3-504

²⁾ 葉山しおさい博物館, 〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2123-1

³⁾ 広島大学大学院生物圏科学研究科, 〒739-8528 広島県東広島市鏡山1-4-4

要 旨 *Jujubinus geographicus* Poppe, Tagaro and Dekker, 2006 (ニシキウズガイ科) および *Genotina genotae* Vera-Peláez, 2004 (マンジガイ科) が鹿児島県種子島沖の水深102m より採集された。これら2種はフィリピン周辺海域をタイプ産地として記載されており、これまでに日本周辺海域からの採集記録がないことから、日本初記録として報告する。

キーワード：フカミチグサガイ, ムラクモマンジ, 軟体動物, 腹足綱, 種子島

緒 言

広島大学生物生産学部附属練習船「豊潮丸」による種子島沖の底棲生物調査により、フィリピン周辺海域をタイプ産地として記載された *Jujubinus geographicus* Poppe, Tagaro and Dekker, 2006 (ニシキウズガイ科) および *Genotina genotae* Vera-Peláez, 2004 (マンジガイ科) の2種が採集された。日本周辺海域からこれら2種の採集記録はなく、日本初記録として報告するとともに、新たな和名を提唱する。

検討試料および採集方法

検討資料は、2016年3月8日に広島大学生物生産学部附属練習船「豊潮丸」により鹿児島県種子島沖 (30° 49' 866" N, 130° 59' 499" E) の水深102m で行われたドレッジにより採集された標本を用いた。

分類学的検討

腹足綱 Class Gastropoda

ニシキウズガイ科 Family Trochidae

チグサガイ亜科 Subfamily Cantharidinae Gray, 1857

Genus *Jujubinus* Monterosato, 1884

Jujubinus geographicus Poppe, Tagaro and Dekker, 2006 フカミチグサガイ (和名新称)

検討資料 1個体 殻高(L)=7.5 mm 殻幅(W)=5.4 mm (死殻)

記 載

殻は円錐形で殻頂は尖る。殻色は淡い赤褐色で、縫合下には白色と暗赤色の斑紋が不規則に並ぶ。螺層は7巻。縫合は白色で褐色の斑紋を散らし、弱く隆起しキール状になる。体層上には7本の顆粒状の螺肋をもつ。螺肋の間には細い螺糸がある。殻底は淡赤色で弱い螺肋があり、やや膨らむ。臍孔は開く。殻口はほぼ方形で、外唇の周縁は角張り、軸唇は厚く、下方に1本の歯をもつ。



Fig. 1. 1a-1c. *Jujubinus geographicus* Poppe, Tagaro and Dekker, 2006 1a. Ventral view, 1b. Dorsal view, 1c. Bottom view. 2a-2b, *Genotina genotae* Vera-Peláez, 2004 2a. Ventral view, 2b. Dorsal view. (Scale bar: 5.0 mm)

分類学的検討

フカミチグサガイは、フィリピン・マクタン島 Punta Engano の水深80-150 m より採集された標本をもとに記載された (Poppe *et al.*, 2006)。日本周辺海域からは、本種および本属に帰属される種はこれまでに記録されていない。Poppe *et al.*, (2006) は、本種を *Jujubinus* 属に帰属させているが、*Jujubinus* 属は、イギリスをタイプ産地として記載された *Trochus matonii* Payraudeau, 1826 (模式種である *T. matonii* Payraudeau, 1826は、*J. exasperatus* (Pennant, 1777) のシノニムと考えられている) を模式種として提唱された属であり、主な分布域を北大西洋から地中海の浅海にもつ種群と推測される。本種をはじめとする太平洋産の *Jujubinus* 属 (*J. escondidus* Poppe, Tagaro and Dekker, 2006, *J. guphili* Poppe, Tagaro and Dekker, 2006, *J. hubrechtii* Poppe, Tagaro and Dekker, 2006など) の殻形態は、北大西洋や地中海から記録されている種に類似するが、これらの種の遺伝的な差異についてはこれまで検討されていない。本報告では、Poppe *et al.*, (2006) の分類に従い本種を *Jujubinus* 属に帰属させたが、太平洋から記録されている種の帰属に関しては、検討の余地があると思われる。

日本周辺海域からチグサガイ亜科の種類は、これまでに6属 (Genus *Cantharidus* Montfort, 1810, Genus *Kanekotrochus* Habe, 1958, Genus *Komaitrochus* Kuroda and Iw. Taki, 1958, Genus *Pictodiloma* Habe, 1946, Genus *Pseudotalopia* Habe, 1961, Genus *Thalotia* Gray, 1847) 9種 (チグサガイ *Cantharidus japonicus* (A. Adams, 1853), エゾチグサ *C. jessoensis* (Scherenck, 1863), ハナチグサ *C. callichroa* (Philippi, 1849), シリプトチグサ *C. bisbalteatus* (Pilsbry, 1901), カイドウチグサ *C. hirasei* Pilsbry, 1901, カネコチグサ *Kanekotrochus infuscatus* (Gould, 1861), コマイチグサ *Komaitrochus pulcher* Kuroda and Iw. Taki, 1958, メクラガイ *Pictodiloma suavis* (Philippi, 1849), コシダカヘソワゴマ *Pseudotalopia sakuraii* Habe, 1961, オニノハ *Thalotia attenuatus* (Jonas, 1844) が記録されている (Higo *et al.*, 1999など)。これらの種は、いずれも潮間帯や海藻・海草葉上を生息基質として棲息していることが報告されている (倉持, 2005など)。

本種に形態的に類似するカネコチグサ *Kanekotrochus infuscatus* (Gould, 1861) は、螺層は6層からなり、体層には弱い顆粒のある螺肋をもつが、軸唇に歯はなく、臍孔が開かないことで本種と区別される。また、イワカワチグサ *Cantharidus urbanus* (Gould, 1861) は、円錐形の殻をもち、各層がつよく膨らみ、縫合は明らか、軸唇に歯はなく、殻口は円形に近くなることで本種と異なる。

チグサガイ *Cantharidus japonicus* (A. Adams, 1853) は、高円錐形の殻をもち、殻表には螺肋をもたず、ほぼ平滑なことで本種と区別される。シリプトチグサ *C. bisbalteatus* (Pilsbry, 1901) は、本種に比べ低い円錐

形の殻をもち、各螺層は強く膨らみ、殻表には弱く細い螺肋のみをもつことで区別される。

分 布

本種は、Poppe *et al.*, (2006) による記載以後、フィリピン周辺海域以外からの採集記録はみられない。

備 考

和名は、日本周辺海域から記録されている他のチグサガイ亜科の種は、潮間帯から浅海に分布するのに対し、本種は、水深80 m 以深の「深み」に分布することに由来する。

Family Mangeliidae Fischer, 1883 マンジガイ科

Genus *Genotina* Vera-Peláez, 2004

Genotina genotae Vera-Peláez, 2004 ムラクモマンジ (和名新称)

検討資料 1個体 殻高 (L)=17.9 mm 殻幅 (W)=6.3 mm (死殻)

記 載

殻は紡錘形でやや厚い。殻表には細い螺肋が並ぶ。殻色は白色で、縫合下と体層部を中心に褐色の群雲模様が散在する。螺塔は高く、殻高のおよそ40%。縫合は弱くくびれる。螺層に太い縦肋をもつが体層部で消失する。殻口は長卵型で外唇は厚い。肛湾入は浅く、殻口は前方へ湾曲する。胎殻は白色で3巻。3層目に縦の彫刻がある。

分類学的検討

ムラクモマンジ *Genotina genotae* Vera-Peláez, 2004は、フィリピン・アリグアイ島の水深110 m 付近をタイプ産地として記載されたマンジガイ科の一種である (Vera-Peláez, 2004)。

Genotina 属には、同じくフィリピンをタイプ産地として記載された *Genotina adamii* (Bozzetti, 1994) と本種の2種のみが記録されている (Vera-Peláez, 2004)。*G. adamii* (Bozzetti, 1994) は、螺塔部の肩が強く張り出し、殻幅は本種に比較して太くなること、殻表には、褐色の火炎模様と螺肋を彩る褐色の帯が断続的な横縞模様をつくることでムラクモマンジと区別される (Vera-Peláez, 2004)。

G. adamii (Bozzetti, 1994) は、当初 *Conorbis* 属に帰属するクダマキガイ科の一種として記載されたが (Bozzetti, 1994)、Vera-Peláez (2004) および Bouchet (2011) により、マンジガイ科に変更された。なお、筆者らは同一海域から *G. adamii* (Bozzetti, 1994) に極めて近似する死殻も採集しているが、殻の保存状態が悪く同定には至らなかった。

分 布

ムラクモマンジは、Vera-Peláez (2004) による記載以後、フィリピン以外からの採集記録はみられない。

備 考

本種の和名は、殻表にみられる群雲模様に由来する。

謝 辞

試料採集にあたりご協力いただいた広島大学生物生産学部付属練習船「豊潮丸」の船長中口和光氏をはじめ

め船員各位、及び船上でのサンプル処理にご協力いただいた片山 樹氏に感謝申し上げます。

引用文献

- Bouchet, P., Kantor, Y. I., Sysoev, A., Puillandre, N., 2011. A new operational classification of the Conoidea (Gastropoda). *Journal of Molluscan Studies*. **77**: 273-308.
- Bozzetti, L., 1994. A new species from Philippines. *World Shells*. **9**: 60-62
- Higo, S., Callomon, P., Goto, Y., 1999. Catalogue and bibliography of the marine shell-bearing Mollusca of Japan. Gastropoda, Bivalvia, Polyplacophora, Scaphopoda. Osaka, Japan: Elle Scientific Publications. 749pp.
- 倉持卓司, 2005. 相模湾におけるチグサガイの成長と個体数の季節変化. *Venus*. **63**: 159-162.
- Poppe G. T., Tagaro S. P., Dekker, H., 2006. The Seguenziidae, Chilodontidae, Trochidae, Calliostomatidae and Solariellidae of the Philippine Islands. *Visaya Supplement* **2**: 1-228.
- Vera-Pelaez, J. L., 2004. *Genotina genotae* new species and new genus and *Genota nigeriensis* new species of the subfamily Conorbiinae (Gastropoda, Turridae). Systematic, biogeography, stratigraphy and phylogeny of *Conorbis*, *Genotina* and *Genota* genera. Pliocenic, *Publicaciones del Museo Municipal Paleontologico de Estepona*. **4**: 95-106.

First record of Mollusks in the Japanese water that were collected from off Tanegashima Island

Atsuko KURAMOCHI¹⁾, Takashi KURAMOCHI²⁾, Akiko KOI³⁾ and Takeshi NAGANUMA⁴⁾

¹⁾ 2-6-3-504 Ashina, Yokosuka, Kanagawa, 240-0104, Japan

²⁾ Hayama Shiosai Museum, 2123-1 Isshiki, Hayama, Kanagawa, 240-0111, Japan

³⁾ Graduate School of Biosphere Science, Hiroshima University 1-4-4 Kagamiyama, Higashi-Hiroshima, 739-8528, Japan

Abstract We hereby report that the specimens of *Jujubinus geographicus* Poppe, Tagaro and Dekker, 2006 (Family Trochidae) and *Genotina genotae* Vera-Peláez, 2004 (Family Mangeliidae) were newly collected from off Tanegashima Island, at the depth of 102 m. The type locality of both species has been listed as the Philippines. This finding records the first occurrence of these species from the Japan water.

Key words: *Jujubinus geographicus*, *Genotina genotae*, Mollusca, Gastropoda, Tanegashima Island

